
◆ トピックス

吉池貞蔵氏 バラコンテストで金賞受賞

吉池氏といえど何と云ってもリンドウである。現岩手のリンドウを育成、産地をつくられた立役者である。バラの吉池氏と聞いて不思議に思われるかもしれない。じつは現在、吉池氏が最も入れ込んでおられるのはバラである。学生の頃からバラに興味をもち、リンドウの仕事をしながらもバラへの想いを持ち続けていたようである。

現職を退職後、バラの品種改良を自宅の庭（圃場）で始められた。育成された品種を私の職場の地元、花フェスタ記念公園で開催されている「ぎふ国際ローズコンテスト」（私が審査委員長）に初めて出品、2007年に銀賞を受賞された（品種名ファミリー）。このコンテストは1998年から開催されているガーデンローズのコンテストで、耐病性、花付き、開花期間などを重視するものである。後にこの品種は可見市の市の花（市の花はバラであるが品種を特定していなかった）にも選定された。

そして2010年は、国営越後丘陵公園で開催された「国際香りのばら新品種コンクール」で見事、金賞でトップ、

国土交通大臣賞を受賞された。並み居るプロの育種家（長年、バラの育種に携わってきている企業育種家など）を抑えての受賞である。このコンクールは世界で唯一の香りに重点をおいたもので、実際の審査にあたって、100点満点中、香りの評価に30点を割り振っている。品種名「真宙（まそら）」はお孫さんの名前だそうだ。

私はこのコンクールでも審査委員長をしており、今春の表彰式には賞状を授与させていただくとともに、表彰式後に吉池氏と対談もさせていただいた。副審査委員長は日本を代表する香りの専門家、中村祥二氏（国際香りと文化の会会長、資生堂研究所 香料顧問）である。本品種の中村氏による香りのタイプは、「フルーティ、ティーの香りにフレッシュなオレンジ果皮よりの酸味がある。女性らしい甘さと親しみやすい清潔感がある。調和がよい」と表現されている。

以上のように、吉池氏は今、一番脂の乗り切った本物のバラ育種家である。

（報告：上田善弘）